

鹿沼市立北中学校 いじめ防止基本方針（ダイジェスト版）

- ◆ 本方針は、いじめ防止対策推進法（平成 25 年法律第 71 号）第 13 条により、北中学校のすべての生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう、いじめ防止等を目的に策定しました。

1. いじめに対する基本姿勢

- (1) いじめは、どの学校・どの学級・どの生徒にも起こり得ることを強く意識し、全教職員でいじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めます。
- (2) いじめは絶対に許さないこと、いじめられている生徒を守り抜くことを表明し、いじめの把握に努めるとともに、校長のリーダーシップのもと組織的な対応に努めます。
- (3) 生徒間及び生徒と教職員との望ましい人間関係の構築、規範意識の高揚、親和的な集団づくりに努めながら、定期的に調査を行い、未然防止を図っていきます。
- (4) いじめが確認された場合は、その解消に向けて全校体制で組織的な対応を行います。いじめが解消された後も、継続して被害生徒と加害生徒を見守っていき、再発防止に努めていきます。

2. いじめ対策委員会

- (1) いじめ対策の校内組織として「いじめ対策委員会」を設置しています。校長、教頭、教務主任、学年主任、生徒指導主事、養護教諭、教育相談担当、部活動担当、特別支援コーディネーターが主たる委員を務めます。
- (2) 本校いじめ対策の中心組織として、方針・計画の立案、いじめ発生時の組織対応に当たります。
- (3) 毎週開催する「運営委員会」「生徒指導部会」と緊密に連携し、生徒の変容や実態の把握に努めながら「いじめの起こらない学校づくり」に向け、様々な教育活動を通じた未然防止対策を行います。

3. いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けた対応

- (1) 未然防止のため、年度はじめに「いじめは絶対に許さない」という教師の姿勢をはっきりと示します。生徒一人一人の人権を大切にしたい学級づくりと、生徒一人一人が、自他の人権の大切さを認め合うことができるよう、教育活動全体で取り組みます。
- (2) 生徒の日常生活の些細な変化を見取るように努め、教職員間の情報の共有・連携を密に図ります。また、各種調査や相談活動、毎日の日録（やまね台）、保護者との面談や連絡などからいじめの芽を早期に発見し、起きた事実に対して指導・対応にあたります。生徒に些細なことでも心配な状況があった場合は、ご家庭に連絡をさしあげることがあります。
- (3) いじめが確認された時点で「いじめ対策委員会」を中心に全教職員で組織対応します。以下、基本的な考え方です。

- 「いじめ対策委員会」が中心となり、関係のある生徒への聴取や緊急アンケートの実施等により事実関係について迅速かつ的確に調査を行います。
- 事実を確認した上で、いじめられている生徒の身の安全を最優先に考えて対応します。いじめている側の生徒に対しては、毅然とした態度で指導にあたります。
- 観衆・傍観の立場にいる生徒たちにも、いじめを肯定していることになる旨を指導します。
- 必要に応じて、外部の専門家（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなど）とも協力して解決にあたります。

4. 教育委員会や関係機関等との連携

- (1) いじめにより生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いや、相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあるなどの重大事態が発生した場合は、速やかに鹿沼市教育委員会に報告し、その後の調査や対応の相談をします。これは、生徒や保護者から重大事態の知らせがあった場合も同様です。
- (2) いじめの内容が、犯罪行為として取り扱うべきものと認められる時には、推進法にもとづいて警察等の関係機関と連携します。また、生徒の生命、身体又は財産に重大な損害が生じる恐れがある時には、直ちに警察に通報し、適切に援助を求めます。

5. 保護者への連絡と支援・助言

いじめが確認された場合は、保護者に事実関係を伝え、いじめを受けた生徒と保護者に対する支援やいじめを行った生徒の保護者に対する助言を行っていきます。

6. 学校評価の実施

いじめ問題への取組について自己評価を行い、校内及び学校運営協議会等にて点検、改善を図ります。